

農業法人が支える体験型リゾート農園

カズサ愛彩ガーデンファーム（千葉県君津市久留里地区）



■ プロセス

車で東京からアクアラインを經由し1時間程、周辺に山並みや田園風景が織りなす緑豊かな地に「カズサ愛彩ガーデンファーム」がある。千葉県君津市にある2ha程の広大な体験型農園は、地元農家と旅行業のプロによるマッチングから生まれた、日帰り体験型農園の取り組みである。

立ち上げのきっかけは、事業主であるアグリライフ株式会社の河井良幸理事と船曳寛眞理事長（元日本エアシステム社長）が、旅行業界で長年にわたりツアー企画に携わった経験

から、グリーンツーリズムや田舎暮らしが注目される中、都心より1時間以内で農体験が気軽にできる菜園にたどりついたこと。河井さんは「今のニーズとして海外旅行にも飽きてきた感があり、次に求めるのは“楽しみながら気軽に田舎を体験できる場所”だと感じた。自分も世代的によく分かる」と語る。

構想が固まると船曳さんと共に、当時中国雲南省の農業研修生を受け入れていた、須藤久雄さんの農園（千葉県君津市向郷）を訪問する。須藤さんは、地元農家で以前から遊休地等を借りて首都圏向けに出荷する農業

生産法人を経営。農家の次男、三男ら100人以上を雇用しており、地元の信頼を得ていた。当時を振り返り、須藤さんは「（計画を聞いて）不安は全くなかった。都市住民を迎えた農園が流行っているが、農家はむしろ集客が苦手。河井さんや船曳さんはプロだからこれを任せておける安心感があった」と語る。一方、河井さんは「君津市ののどかな地域性に共感したが、決め手は地元農家としての誇りにあふれた須藤さんとの出会いがあったから」と応える。

平成18年12月、アグリライフ株式会社（アグリライフ倶楽部）を設立。



左／里山の景観が美しいファーム全景
 上／ファーム内にあるクラブハウス。シャワールームも設けている
 下左／夏場にはブルーベリーの実が豊作
 下右／クラブハウス前のガーデンではハーブや季節の花が楽しめる



船曳さん、須藤さん、河井さんらが出資金3000万円を出し合った。翌、平成19年7月には須藤さんの所有する農地を転用し、駐車場(60台収容)とクラブハウス(150m²、約45坪)を整備した。カズサ愛彩ガーデンファームのツアー企画と参加者募集を河井さんと船曳さんが、農業指導等の利用者のサポートを須藤さんが担当。組織としては、アグリライフ倶楽部に須藤さんが資本参加し、須藤さんが経営する農業生産法人等がアグリライフ倶楽部のグループ企業となることで企画・運営・指導の役割分担が整っている。

■ 取り組み(プロジェクトの内容)

農園は市内の農振白地地域にある。周囲には民間企業のオートキャンプ場が数カ所あるほか、のどかな田園風景が広がる農村地域である。この景観や環境と首都圏から車で50分程度の立地条件を活かし、河井さん、船曳さん、須藤さんがそれぞれ得意分野のノウハウを出し合って、日帰りで農を楽しむ体験型リゾート農園を手掛けた。農地は、特定農地貸付法スキームを利用して君津市から約3000坪を借り受けた。もともと「体験農園方式」に類似した運営だった

ため、その後借り増しした3000坪の農地は、グループの農業生産法人が一般農地を借り受け、それを利用する形で実施している。

開園当時のファーム総面積は、1万m²(約3000坪)、総区画数は150区画。スタート時の30区画から随時希望者が増え続け、2年目の現在はほぼ埋まっている。予想以上に区画を持たないオプションエリア(自由栽培、花・ハーブエリア、スイカやエダマメの株オーナー制など)の人气が高く、現在の総面積は2万m²(約6000坪)となっている。

利用料は区画面積により異なる。



夏野菜の収穫風景



大人気のスイカ割りイベント



きれいに整備された竹林でタケノコ掘り



種まき・苗植えの作付け風景





豊かな自然に囲まれたカズサ愛彩ガーデンファーム



野菜料理教室にはプロの料理人も参加



ファームガーデンでのランチタイム風景



久留里の名水で育てた米(くるり太郎)は、美味しいと会員に評判



手入れをしてくれるので、田畑が荒れる心配はない



農園を切り盛りする河井夫人



ハーブや季節の花が咲くガーデンの奥には農園が広がる



甘みのあるプチトマト



オクラの花と実

区画は、野菜栽培エリア(大きさにより5坪タイプ、10坪タイプ、15坪タイプに区分)とオプションエリアに分かれ、それぞれ月額6300円、1万2600円、1万6800円(料金には農地使用料、種・苗・肥料代、メンテナンス費、耕作指導料、収穫物、クラブハウス使用料など一切の費用が含まれる)となっている。

農業生産法人は、市民農園を営むための環境整備、作付け指導、イベント等のマンパワーを業務委託により担当。また、竹林、イチゴ園、スイカ畑、稲作、サツマイモ畑などは、農業生産法人の耕作地を利用している。その結果、地元農業者にとっても農業生産法人を通じて、直接顧客と接し、付加価値を付けて販売するなど、農作業意欲が高まることにより、営農者の確保・定着に役立っている。

会員数は、開園当初団塊世代のり

タイア層をターゲットに会員募集を始めたが、その後予想に反して、食育・農体験に関心の高い子育てファミリー層が増え始め、現在2年目で120人を超えた。このように、反響も多く、雑誌、新聞、テレビ等のマスコミに数多く取り上げられている。

農園の設備には、農地整備費も含め総額3000万円程度を投じた。その際、クラブハウス、園内の駐車場は農地転用にて整備している。

■ 地域活性化に向けて

君津市はこのプロジェクトに大きな関心を持っており、市長をはじめ、市の職員もたびたび訪問している。また、農園のオープン時には君津市役所で記者発表を行った経緯がある。運営側として、君津市には、インフラ整備(道路、植林、景観保持)および広報宣伝の面で支援してほしいと要

望している。

■ 成功のポイント

河井さん、須藤さんに成功のポイントを伺ったところ、以下の点が挙げられた。

① 二地域居住を成功させるキーワード「大都市に近い」

全部を捨てて田舎暮らしは出来ない。移動にあまり時間がかからない。田園を感じさせる美しい景観。仕事(農体験)、生き甲斐、コミュニティ(東京から近い久留里周辺は都会との交流に馴れているため)

② 付加価値としてのエンタテインメント性

感動させるソフトやノウハウ。自分は旅行業・観光業を通じて人を楽しませるプログラムの作り方を習得した。その経験が毎月イベント(作付勉強会、トンボとり、タケノコ掘り、山菜



写真左から須藤久雄さん（ファーム長）と河井良幸さん（アグリライフ理事）。上手く役割分担することで、質の高い体験型農園が実現した

狩り、苗植え祭り、収穫祭、バーベキュー大会、野菜料理教室、芋煮会、餅つき大会、イチゴつかみ取り等）に活かされている。

③ その他

野菜作りのプロ（ファームインストラクター）のもとで、土作りから、種まき、苗植え収穫まで季節を通して体験。カズサ愛彩ガーデンファームは、「楽しく学ぶ」「楽しく育てる」「楽しく食べる」「楽しく集う」をコンセプトに、会員同士の交流やファームスタッフとのコミュニケーションを通じて、アグリライフの理想的な環境を整備している。

■ 今後の展開と課題

アグリライフ株式会社の設立から4年目、農園の運営開始から3年目を迎えた。まずは都市住民の農を楽しむニーズの高さが立証されたと河井さ

んは振り返る。

次のステップは、滞在型施設の整備。日帰り滞在ではなく、滞在拠点を整備し、もっと気軽に時間をかけて農体験を楽しんでもらいたいとの意向がある。

また、最終的には地域活性化のための定住可能な住まいの提供がある。会員からの要望が徐々に増えていることもあり、構想段階ではあるが「久

留里フォレストビレッジ」の計画がある。具体的には、200年住宅、定期借地権といった事業手法を用い、建物価格を2000万円程度に抑えた欧米型の住宅地の整備をめざす。宅地内に菜園を備える方式ではなく、コモンのに備える方法を想定しており、宅地内と菜園を分離し、菜園の景観と管理運営を重視したまちづくりを考えている。

プロジェクト概要

● カズサ愛彩ガーデンファーム

所在地：千葉県君津市向郷1781-1
 総面積：約20000m²（約6000坪）150区画
 利用料：入会金無料、会費は5坪月額6300円、10坪月額12600円、15坪月額16800円。
 なお、料金には農地使用料、種・苗・肥料代、メンテナンス費、耕作指導料、収穫物、クラブハウス使用料など一切の費用が含まれている。

● アグリライフ倶楽部（事業主体）

所在地：東京都中央区日本橋室町1-8-2
 末廣ビル3F

設立：平成18年12月13日

資本金：2000万円

代表者：代表取締役 船曳寛真

主な事業：体験農園および農業生活クラブの企画、経営。食と農業に関する調査、教育、支援。地域活性化に関する調査、教育、支援。地域産業に関する商品の企画と販売業務。その他各項目に関連する附帯事業。

グループ企業：株式会社アグリアドバンス、ウォーターファーム須藤、有限会社レイクファーム亀山、有限会社カズサベジテック、有限会社カズサベジテック八ヶ岳、有限会社にしばら葉彩、株式会社にしばら葉彩、有限会社ベジコス、農業生産法人愛郷園